

だいせつぎんのすがお

# 大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

## 東川の季節感

秋が来ました。

たっぷりと降りつもった落ち葉をかシャカシャと踏みながら、すっかり葉の落ちた広葉樹林を歩く。乾いた地面を探して晩秋の日だまりの中、暖かさと冷たさの狭間を漂いながら昼寝をする。私の好きな秋の過ごし方です。私が生まれ育った本州の秋は冬の境目が曖昧です。雪が降らないために、暖かな日差しがあればいつまでも晩秋と言い張っても通じてしまいます。

そんな晩秋の昼寝好きな私ですが、北海道ではそうはいきません。寒さとともに雪が降り始め、明確に冬の境目があります。たとえ雪が解けたとしても、乾いた地面と日だまりはどこを探してもないのです。秋が短い。それが北海道の秋なのではないでしょうか。秋の短さを少し寂しく感じながら毎年の秋を過ごしています。

ところで、東川には色々な秋があるのをご存じですか。



一番早い秋は旭岳の秋です。姿見の池園地は9月上旬から紅葉が始まり、下旬にピークを迎えます。ナナカマドやチングルマが赤く染まり、ハイマツの緑と美しいコントラストを見せてくれます。

10月に入ると、旭岳温泉周辺のダケカンバやミネカエデが黄色に染まり、天人峡・羽衣の滝周辺もカツラやハウチワカエデが色づき始めます。キトウシ山の木々が紅葉を始めるのが10月中旬ごろでしょうか。カラマツの黄色を最後に彩りの季節が終わります。

自然界の動きと呼吸を合わせるように行われる稲の刈り取り風景やもみ殻を燃やす煙も、秋を感じる大切な要素ですね。

これだけたくさんの秋が感じられる町はそうそうあるものではありません。大雪山国立公園旭岳では日本一早い紅葉が楽しめますし、晩秋のキトウシ森林公園は落ち葉歩きを楽しむのにとっても良い場所です。短いといわれる北海道の秋ですが、町では2カ月間も楽しむことができます。

まだ秋らしい場所に行っていない方は、今日が吉日です。新米のおにぎりを持って出かけてみてはいかがでしょうか。きっと自分だけの秋を発見できますよ。

NPO法人ねおすコーディネーター

大雪山自然学校代表 小林 峻

## 俳句

朝刊とホットコーヒーけさの秋

澤田久美子

庭下駄の足うらに知るや今朝の秋

松山蓉子

名月に街の喧騒のみこまれ

三島智

鉄びんのおちよぼ口なる今朝の秋

秋山深雪

警報に二百十日の水を汲む

長谷川きみゑ

秋暑し風なき午後の風見鶏

小林露葉

雲の道ちぎれちぎれの今朝の秋

青野公花

野苺や野山を馳せし腕白期

杉山ひろのり

朝寒に揺れて耐えいる白蝶草

徳光吐苦

老ゆきし深呼吸一つ今朝の秋

杉山りつ

祖父出番二百十日の補修員

山口佐知子

流木にそっと寄り添う萩の花

高瀬潤

水溜まりの雲足せわし今朝の秋

石澤清宏

